

達示 一九三三—一〇二

「村落活動」及「新幹部養成」資料 二

米價政策に對する資料

全國農民組合總本部

米價慘落の様相原因

昨年八月の所謂「非常時」と銘打つた臨時議會に於て農村の悲境が叫ばれ、雨後の筍のやうに農村救済案が續出したものの中に、現時の農村恐慌が「農産物下落」より來るものとして、「農産物價」を昂騰ないし維持せしめることが農業恐慌を救ふ道であり、それがために「通貨流通の圓滿」（政府）、「通貨の疏通」（民政）更に進んで「通貨の増發」（政黨）即ちオフレーション乃至はインフレーション政策をとれといふ意見がとび出した。これは、通貨膨脹率高物價によつて農産物價格の「昂騰」を招來して農民の腹を肥やし、他面貨幣價值下落を通じて農家負擔の軽減を計れといふのである。そういうことによつてかどうか、ともかくも、其後二十四億の老大量算が組まれ、世はあげて「インフレ」「インフレ」へと奮進した日銀兌換券發行高の如きも、昨年八月から見れば、四千五百萬圓餘